

する文献も7頁にわたつてあげられている。原色図がやや小さいが、内容の豊富なことはこれを補つてあまりがある。初心者が採集品の名をしらべるのにも好適であるが、更に進んで海藻の研究に進む人に、又採集を指導する方々にはこの上ない良い手引きであろう。(保育社発行、1,200円)

(東海区水産研究所 須藤俊造)

## 学 会 録 事

### 日本藻類学会第4回総会記事

本会第4回総会は恒例に依り日本植物学会大会が札幌市北海道大学で開かれたのを機会に、去る7月12日午後3時より同大学附属植物園前の水産会館で開催された。出席会員は41名で、その他に水産業者代表が数名出席し盛会であつた。次に当日の模様を総会次第に従つて報告をする。

開会挨拶： 中村幹事

会長挨拶： 山田会長

(要旨) 本会発会以来3年を閲し、現在会員も265名を数えていよいよ会の基礎も充実したので今後とも我が国藻類学の発展のため努力したい。

一方、国際藻類学会設立の機運もあり、米国加州大学パーベンフス教授よりの照会に対しては、本会々員中より入会希望者が33名あつたので、この旨を返事したがその後の動向は不明である。

議長選出： 恒例により地元より時田郁氏を選出した。

庶務会計報告： さきに本誌第4巻第1号に同封した30年度報告の通りに川嶋幹事(庶務)及び舟橋幹事(会計)より報告と質疑に対する応答があつた。

議 事： 議題は提出されなかつたが雑誌「藻類」の編輯を中心に活潑な質疑応答が行われた。その要旨とするところは「藻類」の内容が原著論文偏重の傾向があつて藻学の一般的な普及の点に欠ける恐れがあるので会員全般に親しみやすい綜説、雑録等を出来るだけ多く掲載せよとの希望であり、これに対し会長より善処の約束と共に会員諸氏の御協力の要請があつた。

閉会挨拶： 中村幹事

講 演： 小憩の後田中剛氏の司会で講演に移つた。講師と演題は次の通りである。

(1) 沢村政成氏(道庁水産製品課) 戦前並びに戦後に於ける本道コンブ海藻類の生産消流状況

(2) 中村義郎氏(北大海藻研) コンブ増殖上の諸問題

沢村氏は詳細なるデータを示され、又中村氏は室蘭海岸で行つた増殖試験の幻燈を使用されて道内に於けるコンブをはじめ有用藻類の生産状況や増殖問題に関して有益な解

説をされた。

なお講演終了後、同じ会場で北海道漁業組合連合会及び水産研究会共催の懇談会が催され、時田郎氏の司会により札幌名物のビールを始め数々のもてなしを受けながら自己紹介及び会員と水産業者との間にコンブ、ノリ、テングサ、フノリ或はアヲノリ等の有用海藻類についてそれぞれの立場から意見が述べられ、又質疑応答などもあつてなごやかな中にも有意義な会を閉じた。終了午後九時。

なお今回の総会及び懇談会については上記道漁連並びに水産研究会より多大の御援助を頂いた。ここに特記して深謝の意を表す。

### 総会出席会員

秋山 優	安藤 芳明	浅利 政俊	福原 英司
福島 博	舟橋 説往	藤田 征晴	長谷川 由雄
平野 和夫	平野 実	広瀬 弘幸	稲垣 貫一
入来 義彦	一戸 正憲	笠原 和男	川端 清策
川嶋 昭二	北見 秀夫	小林 艶子	黒木 宗尙
正置 富太郎	三上 日出夫	中村 義輝	野田 光蔵
大房 剛	尾形 英二	近江 彦栄	阪井 与志雄
佐々木 正人	佐々木 茂	佐藤 正己	瀬木 紀男
須藤 俊造	田中 剛	田沢 伸雄	千原 光雄
時田 郎	辻 寧昭	梅崎 勇	渡辺 篤
山田 幸男			(ABC順)

本会会員三谷進氏は去る1月24日京都に於て逝去されました。謹んで会員諸君に報じ哀悼の意を捧げます。

昭和31年8月

日本藻類学会